

水辺の公園

使いやすく、皆のものにするために

江東区 旧中川水辺公園準備担当

清田光晴、吉木一浩

吉木さん

旧中川川の駅整備プロジェクトの背景と歴史

- 旧中川の歴史的変遷:
 - 江戸時代初期から水運の要所として発展
 - 徳川家康の江戸入府後、小名木川等の河川整備により水運基盤が確立
 - 中川番所が1661年に設置され、船舶の監視・管理拠点となる
- 荒川放水路の建設(明治40年代):
 - 明治40年・43年の大水害を受けて荒川放水路が建設
 - 青山士が設計を指揮し、パナマ運河の技術を応用
 - 1300戸の住民移転を伴う大規模事業
 - 小松川閘門(昭和5年完成)により船舶通行を確保

江東区の地盤沈下と治水対策

- 地盤沈下の原因と影響:
 - 工場の地下水汲み上げと天然ガス採取により地盤が大幅に沈下
 - AP0(荒川基準点)以下の地域が広範囲に発生
 - 昭和50年頃に地下水汲み上げ規制により沈下が収束
- ゼロメートル地帯の治水システム:
 - 外郭堤防・水門整備:昭和24年から第1次高潮対策事業開始
- 内部河川整備:
 - 西側河川:耐震護岸整備(清澄排水機場等で対応)
 - 東側河川:内水位低下事業(常時水位AP-2.0に維持)

川の駅整備プロジェクトの実施

- 整備のきっかけ：
 - 平成22年度：旧中川の親水護岸整備完了
 - 平成23年：河川空間のオープン化制度開始
 - 東京スカイツリー開業に伴う観光ポテンシャル向上
- 地域協議会の設立と合意形成：
 - 「旧中川川の駅賑わいづくり協議会」を設立
 - 江東区副区長、警察署、町会連合会、商工会議所等が参加
 - 地域の合意を得て整備方針を決定
- 施設整備内容：
 - 多目的スロープ（観光バス発着対応）
 - 手漕ぎ船用栈橋
 - 防災船着場
 - 河床（イベント・飲食スペース）
 - 店舗・詰所・トイレ・休憩場

占用許可手続きと技術的課題

- 東京都との協議内容：
 - 河川流量への影響評価
 - 貯留量への影響計算
 - 既存船舶航行への影響確認
 - 堤防構造への影響検証
- 関係機関との調整：
 - 国土交通省、東京都建設局との協議
 - 江戸川区等隣接自治体との調整
 - 地元関係者への説明と合意取得

プロジェクト完成とオープニング

- 工事完了：平成24年度に川の駅整備工事が完了
- オープニングセレモニー：平成25年3月16日に開催
 - 町会、自治会、学校、NPOなど地域の関係者が参加
 - 屋形船のデモンストレーション実施
 - 観光バス運行開始（東京スカイツリー方面等のコース設定）

清田さん

旧中川川の駅の整備と管理運営

旧中川川の駅は、水面と陸地が近接した静水面の特性を活かして整備された。この立地により、水辺空間と陸上空間が非常に近く、船着場や歴史館などの施設との連携が可能となっている。

- 立地の特徴:
 - 常に一定の水位が保たれている静水面
 - 陸地からのアプローチが容易
 - 水位差が最大2m以上ある西側とは対照的な環境
- 歴史的背景:
 - 荒川工事の際にオランダの土木技術を導入
 - 100年前の工事技術が現在も継承されている

指定管理者制度の導入

令和5年4月1日から令和10年3月31日までの5年間、川の駅と旧中川水辺公園に指定管理者制度を導入。東急中水彩羽JVが管理運営を担当している。

- 官民連携の取り組み:
 - 地域ニーズに対応したバーベキュー場やドッグランの整備
 - 北欧スタイルカフェの運営
 - 水辺イベントや地域イベントの定期開催
 - 防災活動の実施
- 地域との連携:
 - 亀戸のアジサイ祭りなど地域の祭りとの協力
 - SNSを通じた情報発信により外国人観光客も増加

防災機能の強化

川の駅では防災体験や災害時協定の締結を通じて、地域の防災力向上に貢献している。

- 災害時協定:
 - 城東警察署との連携
 - 地域団体との協力体制
 - 防災ボートの活用
- 防災意識の向上:
 - 過去の水害経験を踏まえた取り組み
 - 水辺を活用した避難訓練の実施

オリンピック・パラリンピックとの関連

東京2020大会では、江東区の水辺環境が高く評価され、カヌー競技の会場として活用された。

- 競技会場としての評価:
 - 海の森水上競技場でのカヌー競技開催
 - IOCやIPCからの高い評価
 - 都心部での優れた水辺環境として認識
- パラアスリートとの連携:
 - 瀬立モニカ選手の練習拠点として活用
 - バリアフリーな水辺空間の実現
 - 子ども大会での表彰式プレゼンター参加

新たな公園整備プロジェクト

東大島9丁目すくすく公園

令和3年度から6年度にかけて整備された、江東区初の「区民とともにゼロから作る公園」。

- 住民参加型の整備プロセス:
 - ワークショップ形式での計画策定
 - 実証実験による検証
 - 住民による芝生張りや植樹への参加
- 公園の特徴:
 - マルシェ開催可能な日陰空間
 - インクルーシブ遊具の設置
 - プレーパーク機能の導入

越中島地区の水辺拠点化

東京都と連携して、越中島地区を新たな水辺の賑わい拠点として整備中。

- 拠点化の取り組み:
 - 地域・民間・大学・NPOとの協議会設立
 - 隅田川マルシェなどの活動展開
 - 常設的な賑わい施設の検討

今後の展開

地下鉄8号線延伸に伴うまちづくり

2030年代半ばの開業を目標とした地下鉄8号線延伸に合わせて、各駅周辺のまちづくりを推進。

- まちづくり構想:
 - 令和5年3月に基本構想策定
 - 枝川駅周辺地区を先行モデルとして整備
 - 水辺の街としての特色を活かした開発

公園マスタープランの策定

令和9年3月完成予定で、地域特性や利用者ニーズに応じた公園整備・管理方針を策定中。

質疑応答

防災船着場周辺の整備計画

防災船着場の活用における主要な課題として、周辺地域の整備が重要な検討事項として議論された。

- 現状の課題：
 - 船着場単体では地域活性化に限界がある
 - カフェなどの関連施設が不足している
 - 利用促進のための周辺環境整備が必要
- 具体的な検討地域：
 - 高橋周辺：立地条件が良好で開発ポテンシャルが高い
 - 交差点付近：集客という観点で有利な立地
- 今後の方向性：
 - 区としてより積極的なイニシアチブの発揮
 - 周辺地域を含めた総合的な整備計画の検討

まちづくりの進め方

江東区のまちづくりは地域住民の声を基盤とした方針で進められている。

- 基本方針：地域住民の提案を踏まえたまちづくり方針の策定
- 現在進行中の取り組み：
 - 地下鉄8号線関連の住吉・錦糸町周辺のまちづくり検討
 - URの西大島周辺を含めた地域との協議
 - 地域の声を反映した方針のとりまとめ作業

船着場利用の制約と可能性

- 内部河川（旧中川・元荒川）の制約：
 - 日没後の利用が基本的に不可能
 - 各水門が日没で閉鎖されるため
 - 防災上の理由によるハードルの高さ
- 隅田川沿いの可能性：
 - 夜間利用の需要が高い（特に暑い時期）
 - 橋のライトアップを楽しむ夜間ツアーが人気
 - 飲食店街との連携による相乗効果

DXを活用した管理システム

船着場の管理における課題解決のためのデジタル化推進が検討されている。

- 現在の課題：
 - 人的管理による制約（鍵の開閉作業）
 - 安全管理上の問題
- DX活用の検討内容：
 - 電子錠の導入
 - 監視カメラとの連動システム
 - 利用予約・管理システムの構築

観光・文化振興の取り組み

- 持続可能性の課題：
 - 舟運事業の採算性問題
 - 事業者の参入促進策の必要性
- 地域資源の活用：
 - 荒川放水路開設100周年を契機とした沿線自治体との連携
 - 新川・駒沢周辺の施設群（排水機場、ポンプ所、船橋資料館）の一体的活用
 - 回遊性のあるまちづくりの検討

越中島地区の整備計画

- 海洋大学との連携強化：
 - 船着場と大学の一体的な活用
 - バリアフリー化工事の実施（来年3月完成予定）
- アクセス改善：
 - 人が通行しやすい環境の再整備
 - 大学と千石地区の一体性向上

旧中川ふれあいパークの活動

- 収益化の課題：
 - 舟運事業の継続困難
 - 水陸両用バスの運転手不足
 - コロナ禍による運航停止の影響
- 新たな取り組み：
 - 1000平米の花の景色づくりプロジェクト
 - 年間200平米ずつの段階的拡張
 - 季節ごとの景観変化による集客効果

多言語対応・国際化への取り組み

豊洲地区を中心とした外国人住民の増加に対する対応策が議論された。

- 現在の対応状況：
 - 防災マップの多言語化（英語・中国語・韓国語）
 - 区ホームページの多言語対応
 - QRコードによる情報提供
- 今後の課題：
 - 自治会活動での多言語サポート
 - 国際的なイベント開催の検討
 - 地域ルールが多言語での周知